

# ヴェーナス通信

Venous(静脈) Venus(護美の女神)



第11号

発行 東多摩再資源化事業協同組合  
 編集長 吉浦高志  
 理事 東 紺野武郎  
 東京都東村山市久米川町1-16-5  
 TEL & FAX 042-395-9788

## 今、古紙利用環境が急変中!

平成十一年の新春を迎え、謹んで新年のお慶び申し上げます。

昨年のが国経済は、金融破綻や大型倒産そして失業率は史上最悪と、負の連鎖が顕現した一年でした。

リサイクル産業も混迷を極め、古紙の暴落に続いて、鉄スクラップや銅アルミなどの非鉄金属全般が大暴落し、関連企業の倒産も相次ぎました。

しかし古紙は、低価格で使用し易くなったこともあるだろうが製紙業界の技術革新、そして何よりも再生紙に対する世論高揚などから印刷出版業界で古紙配合の多い再生紙を使う動きが拡大していることなどにより、利用率が急速に向上しようとしています。また、一昨年・昨年合せて百万トンからの緊急古紙輸出の効果もあって、

年末には余剰化が一掃致しました。

回収業界の全国組織である日資連は、長年にわたって古紙利用拡大の具体策を提言してきましたが、まず六百万トン近い洋紙を使用している新聞業界が襟を正せば問題の殆どは解決すると訴えてきました。DIP(脱墨古紙パルプ)は、主に新聞古紙を原料として印刷インクをとり除きパルプ化したもので、再び新聞用紙や印刷情報用紙・コピー用紙などの原料として純パルプに混入して使われています。DIP施設は昨年

から今年にかけて全国で新增設が進んで、月間三十五〜四十万トンからの生産能力になると推測されます。現在配達される新聞にはDIPが五十%前後入っています。この品質を維持したままで八十%に向上し実用化したのが大王製紙・の新聞用紙で、その他の洋紙メーカーも追隨して

近年中には全紙とも六十五%近く古紙を配合する方向で改善しているようです。これが実現されれば、新たに八十七万トンの新聞古紙を利用することが可能になります。今でも新聞古紙(チラシ含)は、百万トン以上未回収になつていまますから、古紙回収の環境さえ改善されれば国内調達は十分に可能と思います。再生紙利用は日資連が運動を初めて十年してハガキ・教科書でも実施され、官公庁や地方自治体での使用紙も古紙混入の高いものに替りました。用紙メーカーは古紙不足を懸念して安易な古紙輸入などに走らず、国内の未回収古紙の回収拡大につながる環境改善に全力を尽くして頂きたい。同時に、社会全体がコスト負担の責任を担い、ごみ減量のためのリサイクルではなく、ごみにならない循環型のごみになるほど作らない循環型の新世紀を迎えたいものです。

直言拝聴

白色度とリサイクル文化

東京多摩リサイクル市民連邦事務局代表 ゴミニスト  
多摩R団連事務局 長 江尻 京子



●はじめに

TAMAらいふ21をきっかけとして、多摩地域のごみやリサイクルの問題を横断的に考え、実践していこうというNPO、東京・多摩リサイクル市民連邦（略称 市民連邦）が誕生したのが、一九九四年二月だ。その後、「とことん討論会」の主催団体として市民団体や行政、事業者と連携をとりながら活動の幅を広げてきた。

私は、この市民連邦の三代目事務局代表であり、市民の生活にグッと近い位置で縦に対しても横に対しても「ごみ」に関する発言をしている「ジャーナリスト（ゴミニスト）」である。

今回は、紙の白さについての私の雑感を書いてみたい。

●「再生紙」の学習帳

私が最初に「紙」に関心を持ったのは、現在中学二年の長男が小学校一年の時だ。

彼が使っている算数や国語

のノート（学習帳）がやけに白い。教科書が薄いクリーム色をしているせいかもしれないが、とにかく真っ白だ。「再生紙の学習帳はないのだからか」。当時は、再生紙といえ、白くない少々質の悪い紙をさしていたので、「消耗品として使うノートは再生紙でいい」という思いの地域の仲間と半年近く捜し回った。

ようやくみつけたものの、今度はメーカーが販売を中止するという。理由は売れないから。ノートは白ければ白いほど高級品という「日本の常識」の台頭。それでも、メーカーと何度も話し合いを持って白色度七〇、新聞古紙七〇%使用の学習帳を一般市場に流通させることに成功した。家庭で集めて紐をかけて資源回収に出している新聞紙が、こんなふうにご利用されているんだ・・・というリサイクル

の流れを子どもたちに実感させるのにもいいというのが、当時の私たちの思いだった。

ところが、当時私たちの使っていたコピーは「再生紙の学習帳」。再生紙というのは白くない高級ではない紙という定義付けを私たちに示していたのだが、なんと、次々と白い再生紙が出始めたのである。しかも、当時は学習帳に関するエコマーク認証規定には白色度の項目はなく、ほとんどの学習帳が白い再生紙を使ったエコマーク商品にかわっていったのだ。小さな市民団体の声よりも「国のお墨付き」であるエコマークの方がずつと力がある。あれだけ説得して販売を続けてもらったメーカーもだんだん疲れが出てきてしまった。

ほぼ同時期、オフィス町内会でもコピー用紙の白色度にこだわる動きがおこり、その波が行政や事業所を動かして

いった。私たちのような小さな市民団体の活動とは雲泥の差だ。しかし、行政も事業所も「あつ、この程度の白さで何の問題もないんだ」ということを実感するようになり、白色度に対する考え方がだんだんかわっていったのは嬉しいことだった。

こうした積み重ねが世論の高まりとなり、用紙やノートに関するエコマーク規定の中に白色度という項目が入り、自治体や事業所のグリーン調達へとつながっていった。

#### ●白色度とトイレトペーパー

そんな中で目立ってきたのがトイレトペーパーの白さだ。トイレトペーパーこそ純パルプである必要はない。二度と再生できない紙だからこそ古紙ものをおおうという運動は多くの市民団体で取り組んでいることだ。ところが、白さにこだわった運動をしているところはほとんどない。

まだまだ純パルプものに対抗しているのだから、白さにこだわるところまではいつていないという声が多いようだが、学習帳の二の前にならないためにも古紙であり、且つ白くないことにこだわった運動を早くから展開すべきだろう。

ただ、尿や便の色を確認しなくてはならない病気を持った人などは真っ白いトイレトペーパーが必要であることもきちんと押さえておくべきだ。が、最近では牛乳パック一〇〇%再利用という真っ白いトイレトペーパーが売りに出されている。ということは純パルプものは不要ということでもいいのでは。

さて、一時期、牛乳パック再利用のトイレトペーパーが出回るようになったことが古紙ロールを必要以上に白くしたと一部でいわれていたようだ。「東京の消費者は牛乳パック入りでないと買わない

」といううわさが静岡県内で流れたという話を聞いてビックリしたことがある。すなわち、トイレトペーパーの生産地では消費者需要にあわせて、牛乳パック入り、もしくはそれに準ずる白い古紙ロールを供給していたのだろう。「準ずるもの」として利用されたのは、いうまでもなく上質古紙であるわけだ。

そこに課題提起したのが、町田市にある共働学舎ブランドの雑誌を利用した古紙ロールだった。少年ジャンプなどのマンガ本や分別されないで排出された古紙を中心に製造している。その後、静岡の市民グループとの連携で静岡製紙が作ったのが雑古紙一〇〇%の「うれしいトレペ」だ。東多摩再資協の「ブーメラン」と同種のものだ。雑古紙というのは、静岡製紙独自の呼び方。分別が悪くて燃やされていた紙類と事業所や役所な

どから回収した廃棄文書と一緒にして使う。余計な化学処理はしないでパルプにもどし、漉き直すだけだ。このシンブルさは共働学舎も同様だ。

●リサイクル文化の創造  
日本人にとつての「白」は特別の意味を持つといわれている。日本文化としての白は私も大切にしたい。しかし、白を崇拜しすぎるのはいかかなものか。

循環型社会を構築していくという大きな社会の流れはリサイクル文化という新しい価値の創造にもつながる。たかだか、子どもの学習帳であり、トイレトペーパーである。しかし、文化は一般の市民の暮らしがあつてこそ生まれ、育つものだ。

紙の白さへのこだわりが、日本の文化史に色を付けていくのはそう遠いことではないように思うこのごろである。

## 輸入ワインびん

### 再生の課題

近年、我が国において、輸入ワインが急増している。ガラスびんリサイクル促進協議会の『酒類製品輸入動向』によれば、その種類は二リットル以下の赤ワインが主で、一九九八年一月～八月までの輸入量は約十三万トン余り、前年比の約三倍に当たる二九三・九%である。ところがこの輸入ワインの急増とは裏腹に、この輸入ワインの空きびんの回収・再生処理において大きな課題が生じている。

その課題とは、輸入ワインの空きびんの回収で業者が赤字を出してしまうこと、その赤字の原因として輸入ワインの再生が大変困難であり、かつ、需要が極めて少ないことである。

輸入ワインの空きびんは、その色が緑色であり、一九九八年四月に施行された『容器包装リサイクル法』では「その他の色」に区分される。回収業者は、これを無色や茶色の空きびんと共に区分して回収し再生業者に卸すが、この時、無色と茶色の物は一キロ二～三円の売上になるのに対し、輸入ワインの空きびんは一キロ七～八円の支払となる。近年これが全体の約三割に増えたため、回収業者にとっては赤字となってしまうたのである。

その赤字の原因は空きびんを再生する側にある。では、なぜ再生業者が輸入ワインの空きびんを避けるのかといえ、その理由は三つある。①輸入ワインの空きびんは、びんカレットの色別取扱量が三・二%と発注量が少ないために専用の

炉が作れず、再生するのに手間と金が掛かり採算性が合わない。②輸入ワインの空きびんを砕いた緑・黄緑のカレットを他の色と混ぜて炉に入れて溶かすと、硫酸化物と称する泡が発生するため成分が合わず、消泡剤の投入で対応するにしてもコストが掛かる。③無色・茶色の物は飲料水・ドリンク剤・ビール向けに再生されているが、緑色の物は需要が極端に少なく、また、輸入ワインの空きびんは清酒向けに再生されている国内産の緑色の物とは透明度の点で一致しないなど。びんの生産自体も缶に押されて頭打ちであり、さらに、輸入ワインの空きびんのカレットの利用方法においても、グラスウールへの利用や道路舗装用のアスファルトの路盤材としての利用があるにしても、製造過

程での問題や公共事業の削減による伸び率の期待薄感などで、再生品の需要が伸びない。

このような輸入ワインの空きびんの再生の課題に対する対策としては、輸入ワインの空きびんを外国に送り返す・輸入抑制策を採用する・輸入ワインは樽詰めとし、びんには国内で詰めるという策があがったが、コストが掛かる・輸入品愛好者の理解が不可欠であるといった障害があるため採用されず、現段階では、全国カレット連合会が提唱している輸入ワイン一本に何十円かを上乘せする環境負担税創設案が最善策だとされている。いずれにせよ、輸入ワインの急増に合わせこの空きびん対策も急がねばならないだろう。

(豊島硝子専務・菅沢和志氏の対談記事を参考)

## 組合員 新年の一言

理事長 紺野武郎

本年も組合事業は確実に拡大し、各自の仕事量もさらに増加すると思うが、常に心に感謝とゆとりを持つようにしてゆきたい。その為には自身自身も組合全体の運営にもさらに工夫が必要だ。

『日々創造』そして『忙中平常心』でゆこう。

副理事長 奥山賢児

昨年古紙業界は暗いトンネルの中に在りながらも出口の見え始めた年でした。

今年は太陽の光が降り注ぐ明るい年になるように頑張ります。

副理事長 藤野昭吾

本年は昨年にまして厳しい年になるであろうと思われる。再資協にとつても本腰になって一致団結して立ち向かって

行く年である。ガンバって行きたい。

専務理事 萩原貞雄

この業界にはいり四十五年になります。当時は尺貫法でした。古新聞の価格が当時一貫目六十円しました。(kg十六円)四十五年後現在kg三円です。その三円で作った製品が当時の数十倍です。他の業界にこのような事が有るでしょうか。この現実メーカーさん回答願いたい。いかがなものか。

理事 小畑和夫

貴重な民間リサイクルシステムである集団回収の意義と大切さを、もう一度見直し集団回収の拡大を計っていきたい。特に回収の大部分を占める古紙の分別をPRし集団回収にしかできない高品質の古紙リサイクルを充実させたい。

理事 古川敏雄

私は古繊維業を営んでおります。ウエス製造を中心とし、古着一般を受けたまわっております。今年も古繊維ならではの、リサイクル活動を目ざし協力して行くつもりであります。

理事 土井益次郎

今年も、古紙・鉄類・他の品種も安く厳しい年に成る。更に、他業界との競合も見込まれます。組合員が協力し合い、今迄以上に、委託業務・回収事業等、確実に実施して行き、各行政と連携し、信頼される組合事業としたい。

監事 渡邊一史

いよいよ一九〇〇年代も最後の年を迎えることになりましたが、地球環境、長引く不況、特に古紙市況の低迷等、来世紀に向け解決しなければならぬ問題は山積みされたままです。かかる折り、我々

が行うべきは、創意工夫を加えながら、地域社会に貢献できるリサイクルシステムをさらに発展させていくことではないでしょうか。

理事 斉田康好

リサイクル循環システムにたざさわる者として今年には景気が良くなりますよう。古紙業界と組合事業の発展に努力します。

理事 古山 忠

皆様方のあたたかいご指導のもとで頑張りたい。

理事 吉浦高志

市民の皆様には、ゴミステーションへの出し方を、広報誌を通して訴えていきたい。業者側から見たあまりにひどい所は自治会長、市清掃課、資源組合の三者で話し合いを持つてもらい、何処からみてもきれいな町にするための一

歩前進の年にしたい。

理事 石川 厚

新しい年を迎えて、業界は尚長い不況が、続くと思われ  
ます。私たちは行政のリサイ  
クル参加で、年々実績を上げ  
ています。本年も、健康に留  
意して、仕事に精をだしたい。

広報委員 奥山 慎吾

今年は当たって砕けない程  
度に頑張ります。

事務局員 柿崎 正則

新しい年を迎えるに当たつ  
て、私は、東多摩再資協の新  
人事務局員として、リサイク  
ルの更なる奥深さを追究する  
ため、なお一層の努力と精進  
を重ねながら、当組合事務局  
の職務に従事していきたいと  
思っています。

新人紹介

1 名前 2 生年月日

3 趣味 4 好きな食べ物

柳泉園リサイクルセンター

1 金子生平

2 昭和五十二年十二月九日

3 ボーリング、プロレス観賞

4 揚げ物

1 名古屋吉彦

2 昭和三十七年八月十五日

3 パチンコ、バトミントン

4 ラーメン

1 古川敦子

2 昭和四十年四月十七日

3 音楽鑑賞

4 スパゲティ

1 川崎リサ

2 昭和四十四年五月三十一日

3 旅行、カラオケ

4 寿司、おさし米

1 樋口孝行

2 昭和四十九年三月十五日

3 競馬、野球、ボーリング

4 ピーマンを使った料理

小平 リサイクルセンター

1 松村和幸

2 昭和四十五年九月二十七日

3 映画鑑賞、ボーリング

4 冷やっこ、焼きしいたけ

1 桜井淑子

2 昭和二十八年十月三十一日

3 テニス、音楽鑑賞

4 ラーメン、シチュー

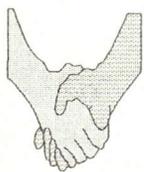
組合事務局

1 柿崎正則

2 昭和四十三年七月八日

3 パソコン、将棋

4 野菜サラダ



トイレットペーパー  
ブーメラン



トイレットペーパー「ブーメラン」は当組合の主要活動範囲である東多摩地域で集められた雑古紙 100%で再生されています。ダイオキシンを発生させる塩素や酸素系漂白剤を使用しないので健康、環境に配慮した製品です。●100m シングル巻 ●1 ケース 100 個入り 4000 円 (税込み, 配達無料) ●10 ケース以上注文の場合 1 ケース 3800 円で 38000 円です。

## 当組合取り扱いの1998年度4月～12月と昨年同期の紙類の数量比較(単位kg)

資源物		小平市	柳泉園	東村山市	合計	増加	増加率%
新聞	今年度	1,306,630	1,730,420	858,470	3,895,520	917,690	131%
	昨年度	1,095,450	1,296,290	586,090	2,977,830		
雑誌	今年度	3,197,120	4,050,740	1,227,250	8,475,110	1,340,520	119%
	昨年度	2,662,990	3,591,890	879,710	7,134,590		
段ボール	今年度	1,545,751	1,282,100	434,610	3,262,461	356,311	112%
	昨年度	1,197,960	1,422,610	285,580	2,906,150		
合計	今年度	6,049,501	7,063,260	2,520,330	15,633,091	2,614,521	120%
	昨年度	4,956,400	6,310,790	1,751,380	13,018,570		
増加		1,093,101	752,470	768,950			
増加率%		122%	112%	144%			

上の表は行政回収で当組合が扱った4月から12月までの今年度と昨年度の紙類資源化量である。

全体では120%の増加となっている。

品種別に見ると新聞が131%と全体よりも多く増加しているのが特徴的である。かつて新聞は需要が多く、値段も雑誌や段ボールよりも若干高値であったため民間回収が活発であったが、今やキロ2～3円にしかならず採算割れとなり業者の撤退が相次ぎ、行政回収に排出されるようになってきたと推測される。

また、東村山市の段ボールは昨年度比1.52倍の伸びを示しているが、これは今年度4月より市のヤード秋水園で事業系の段ボール受け入れを規制しているために事業所が行政回収に出しているものと思われる。

紙類からのみ行政回収の伸びを見ると、昨年度は一昨年度より1.35倍、その前年、或いは前々年度ずつの伸びは1.04～1.07倍であった。昨年度からの急激な増加はちょうど古紙価格の暴落が起こった時期と一致している。紙生産の増産が回収量の自然増に反映はするが、行政回収から見る限りは古紙価格の動向が大きく影響している一面がある。

もちろん、各自治体のごみ減量施策、市民への資源化物の分別排出指導や、さらにリサイクルに関する市民意識の向上などが、年々の回収量の増加に繋がっていることも見逃せない。

## 第二十回東京都統計大会にて萩原専務理事表彰される

東京都では統計思想の普及向上と統計関係者の士気高揚を図り、あわせて統計に対する都民の理解を深めるため統計大会を開催しています。

平成十年十一月十八日に中野サンプラザにおいて第二十回東京都統計大会が開催され、田無市を代表して当組合の萩原専務理事が表彰されました。



表彰状を手に  
喜びの萩原専務理事

武蔵野市グリーンクリーンプフェアに参加して

## ブーメラン販売奮戦記

十一月の第一日曜日に市役所前の広場で年一回のリサイクルに関するさまざまな事をイベントやクイズなどで広く市民の方々に知ってもらおうグリーンクリーンプフェア98に参加した感想を書かせてもらいます。僕は今回武蔵野市

資源回収事業共同組合と言う団体の一員として参加して市民の皆さんに紙の分別についての説明や禁忌品がどうして入ってはいけないの？などの質問に対応していました。今回は新しい企画で東多摩再資源協ブランドのトイレットペー

パー「ブーメラン」を販売しました。先日、田無市のイベントでは理事さん達オヤジ連中で14ケース近く売ったらしいと、言う情報だ。ならばと知り合いの女の子に頼み込んで売り子になってもらい寒さもなんのと売り始めました。一時間たち二時間たちお客さんはずっとたくさん通るのだがちつとも売れない。大声で「ブーメランいかがですかー地球にやさしくオシリにやさしいブーメランいかがですかー」

あ売れる訳ないよなと思いつながら気を入れ直す。この時点で売り込みよりも宣伝と考えるを変えて「ブーメラン」を連呼しまくって赤字覚悟で売りましました。結果3ケース半を売るだけに終わりました。最後にいいものはいんだ！

(広報委員・土井)

## 川柳

古紙に鉄一ケタ相場場で

年を越し

チリ交消えイモ屋にサオ屋

やたら増え

初夢はおさつになった

古紙の山

(幻想家)

バイアグラ

今に見ている古紙だって

(夢想家)

## 私の履歴書 ②

奥山商店株式会社  
代表取締役社長 奥山賢児

昭和三十三年に上京した私は練馬区武蔵関にアパートを借りて前の商売の残務整理をしていました。たまたま同郷の友人に出会い、その人の仕事を手伝う事になりました。その仕事は一斗缶などの容器を集めて再利用する仕事でした。その時初めてくず物回収の「建場」という場所を知りました。そこでは買出人が集めて来たさまざまな品物を建場が現金で仕入れ、それを各品物の問屋が現金で買い取っていました。手形で失敗した私は、これはいい商売だと思いました。

保谷市にあった、喜生商会という建場に家族と一緒に住込みで働くことにしました。山形で商売している時に使っ

ていたオート三輪車を使うという条件でした。くず屋おはらい、と声を出しながらリヤカーで集めている時代にオート三輪車を使うくず屋なんてずいぶん贅沢なくず屋だと言われたものでした。

三年程で保谷市富士町に家を買ひ、喜生商会から買出人として独立しました。喜生商会は買出人が多く忙しかったために、集めた品物は喜生商会に了解のうえ、現田無網元の隣にあった川村商店に納めることにしました。川村商店は買出人も少なく店の周りも自由に使えたため仕事は順調でした。当時は高度経済成長期で、東京オリピックや水道道路（新青梅街道）の工事等でくず屋の商売はたいへん良い時代でした。こうして東京オリピックが開催された昭和三十九年に現在本社のある田無市向台町の土地を購入し建場を始めました。昭和四十年四

月に田無保健所の課長が来て建場の許可の届け出をするように言われましたが、店の周りの塀や品物を置く場所の設備がすでにしてあった為、すぐに許可が下り、正式に建場業者の仲間入りができました。向台町は高台の為、荷物を積んだりヤカーで坂を登らなければならず、なかなか買出人が集まらなかったのも、買出人が集めた品物をこちらから自動車で行ったりました。昭和四十一年には春先になると焼き芋屋さんの仕事がなくなるのに気づき十人程を買出人としてスカウトし仕事を拡大しました。近隣の建場としては初めてフォークリフトを使ったのもこの頃でした。

雑貨や日用品をトラックに山積みにして古新聞と取り換える商売や、富士市からチリ紙を運んで来た運送屋が箱などが破損したりして商品にな

らなくなったチリ紙を団地などで古新聞と交換しているのを見て『チリ紙交換』という商売を思い付きました。向台公園の前に三百坪程の土地を後に購入するという約束で借りてチリ交基地を始めました。最盛期には四十台の車両で二トンの台秤りとフォークリフト一台だけで月六百トン程の古紙を集めていました。しかし第一次オイルショックの影響で商売を縮小しなければならなくなり、借りていた土地を返して、元の向台町の家の裏に四十坪程の土地を買い増しして台秤を設置して商売を続けました。

(つづく)



## 行事・行動

(十一月)

三日：東京ごみ集会

七日：財務委員会

十一日：小平市廃棄物減量審

：定例理事会

十六日：集団回収委員会

二〇日：田無市廃棄物減量審

二四日：清瀬市廃棄物減量審

二五日：保谷市廃棄物減量審

二六日：古紙センター業務委

二七日：柳泉園RC安全会議

三〇日：古紙センターシンポ

(十二月)

一日：新聞リサイクル協議

二日：多摩R団連幹事会

七日：委託事業委員会

十四日：定例理事会

十七日：田無市廃棄物減量審

十八日：小平市廃棄物減量審

二一日：広報委員会

：R団連常任幹事会

二二日：小平市RC安全会議

二五日：広報委員会

三〇日：仕事納め

(平成十一年一月)

四日：仕事初め

五日：年始廻り

六日：広報委員会

十一日：定例理事会

十三日：広報委員会

十四日：容リ法段ボール検討

委員会・通産省

十八日：R団連常任幹事会

：容リ法その他紙容器

検討委員会・通産省

二五日：多摩R団連幹事会

二六日：新聞リサイクル協議

二八日：田無市廃棄物減量審

：古紙センター業務委

二九日：小平市廃棄物減量審

三〇日：理事研修会

## 夢見鳥

副理事長 藤本俊光

竹内 均著『人生を最高に

生きる私の方法』と云う本の

頭に、「個人にとつての理想

の人生とは、一好きなことを

やって、二それで食べることで  
でき、三しかもそれが他人  
のために役立ったとして、ほ  
められるような人生であると  
考えている。」と書いてある。

自己満足、己惚れかも知れな  
いが、私達組合員の一人一人  
が、日々それぞれに努力して

る仕事は、時代の流れに押し  
流される様な時も多々ありま  
したし、其の成果には個人差

はありますが、再資源の回収  
と云う仕事なので色々の人達  
との出逢、又扱う品物も種々

雑多です。特に古本の選別は  
貴重な資料や、めづらしい本  
が出てくるので楽しみです。

ポロ布の包の中からブランド  
品のすばらしい衣服が見当た  
ればおしゃべりは意のままです。

現代私達のやつてる仕事は、  
世間様よりほめられてよし、  
お国のため大きくは人類の幸  
せのため大いにお役に立つて  
ると自負して恥じないと存じ  
ます。健康で何時までも明る

く、自信を持ってお互い頑張  
りませう。

## 編集後記

新年号にご寄稿くださいま  
した、江尻京子様、ありがと  
うございました。

私たちもリサイクル問題の  
集会や、各市のリサイクルフ  
ォアに参加して大きな声でト  
イレットペーパーに白さは必  
要ありませんと、訴えて参り  
ました。この声を二十一世紀  
までには日本全国にとどろか  
せたいものです。

1999年も不況の出口が  
見えないままの幕開けとなり  
ました。賃下げ時代の始まり  
ともいわれます。熾烈な競争  
が本格化し中小企業だけでなく  
大会社も淘汰される時代にな  
ったようです。しかし、こ  
んな時こそベンチャー精神を  
奮い起こして、ウサギのよう  
にジャンプして乗り越えて参  
りましょう。

吉浦